



日本の移動と フランスの移動についてのスケッチ

Esquisse d'une approche comparative des situations migratoires au Japon et en France



Abdelhafid Hammouche

リール第一大学教授、リール社会学・経済学研究所長

■講師紹介

1953年にアルジェリアに生まれる。リール第一大学の教授でありながら、リール社会学・経済学研究所の所長を務める。

著書: *Les mariages forcés. Conflits culturels et réponses sociales*, (avec Gérard Neyrand et Sahra Mekboul), Paris, La Découverte, 2008.

フランスという国は一般に人間の権利という概念が生まれた地域であり、また移民などを受け入れる積極的なイメージを持つ国として見られている。フランスに対して、日本は逆のイメージとまでいなくても閉鎖的な国のように見られる。

本講演では、比較的な視点を採用することによってこのような日仏の対照的なイメージから離れ、両国において起きている移出や移入などの集団的移動の背景を明らかにすることを旨とする。そうすることで、フランスの移動状態との対比から、日本における集団的な移動の特徴を検討することを試みる。ここでは日本の移動の社会史が描かれるのではなく、日本の移動の特徴が示された上で、特に日本とブラジルとの間の移動に目を向けつつ、フランスとアルジェリアとの関係も述べられる。

※講演はフランス語で行われます。(逐次通訳有)

日時： 2月18日(火)

18:30-20:00

会場： 志高館 SK117教室

入場無料・申込不要

共催：LIA-CNRS "Protection humaine et réponses au désastre"

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科
Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp